

3つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております



小原本陣の森
第1日曜日



知足の森
第1日曜日



相模湖・嵐山の森
第3日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp



No.481-482

小原本陣の森、ハイキングコース踏査

【定例活動報告】小原の森

今日は、全員が休みで私だけが出ることになる。と言うのは三十三曲りのコースが夢にでるほど発見したい願望のみである。最悪判ら無い場合を想定して、。3Dスキャナーを持参した。

3Dスキャンを解析し空から現場を見ることができれば、昔のルートが発見できる可能性があるかと判断したためである。何度か入沢から取つたがどうも合点がいかないので、取つき点を隈なく歩き回ってそれらしい形跡と笹を頼りに探してそれらしいコースを想定し、登ってゆくと永井家両家の林分の違いが見て取れるような風景になった。

境界木として、大きな欒やブナ、桜、等異種の樹木が植えてある。また稜線沿いに直線上に檜が植えられていたり分線であることが示されていた。

そのまま稜線まで登り切ると大きな二本のブナ「神の木」が聳えていた。何と神々しいことか。この「神の木」を目指して登り祖先を尊んで来たんだらうと想

緑のダム北相模は相模原
市内で活動する森林ボラ
ンティアです。急がず、無
理せず、楽しく、休ま
ず、ボチボチと・・・。



像できる。

入沢の右コースから登り、300メートル登り、「神の木」から入沢に下る周遊コース（約1時間20分）、孫山登山口としての役目と、孫山からの下りコースとして利用し、小原の郷、小原本陣を見学して相模湖駅への新しい下山ルートを開発すれば江戸の街小原の風情を鑑賞できるであろう。

小林 照夫（本会、理事）



【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

今日参加された方は、私と実習中の森林インストラクターの同期、鈴木康浩氏（ジャーナリストで元日経新聞編集局）と一期先輩になる埴原芳文氏（森林インストラクター）の参加に加え、Foresto Classから瀧澤君と二藤君更に麻布大学の原田先生に私を含めた6名で、小原の郷の奥にあたる入沢から孫山に向かう三十三曲りと呼ばれるルートの発見、発掘作業を行った。そもそも、三十三曲りと呼ばれる登山道は古く江戸時代から多様されたルートで、死者を弔うため稜線上に作られた埋葬場に運ぶためにも利用されたとのこと。

先日も単独でルート探しを行い、それらしいと思われるルートを全員で登り、古い山道の痕跡を発見し再現することで、新しいハイキングルートができ、地域の新しい文化遺産の再現できる。

そうなれば、孫山ハイキングルートに入沢経由、小原の郷、小原本陣拝観コースが誕生し、高尾山からの下山者が孫山ルートを経由し小原本陣に寄る経路が誕生することになる。

高尾山周辺の地質は、1億年ほど昔は海底であった。7,000年前から1億年前の間を通じて少しずつ地層が堆積した。その後繰り返された地殻変動によって海底の地盤が盛り上がり海上に姿を現し、高尾山を始めとする周辺の山々形成された。小仏峠の名を取って「小仏層」と呼ばれている。そんなことで、地質は硬砂岩、礫岩であるため、ポロポロと崩れやすいという特徴がある。

そんな訳で、崩れやすい岩場を登るのはかなり体力を消耗することもある。ジグザグの登山道（三十三曲り）を作ったと思われる。

稜線まで全員で登り、帰りは新ルートを迂回して、嵐山の基地に戻ったが昼食時間はとくに終わっていたので、学生達が頑張っている間伐材の運びだし作業に加わり汗を流した。今年最後の活動になったが、計画通り着々と作業は進んでいる姿を見て安堵した一日であり1年であった。

小林 照夫（本会、理事）

今月の定例活動では、これまで間伐してきた材を農道まで取り出すとどうなるか、試すことにしました。軽トラを砂利道まで入れ、それに積めるところまで、を運ぶというのが今回のミッション。中学生から大学生まで17名で取り組みました。切ったタイミングが全然違うため、切った直後のものはかなり重いのに対して、比較的時間が経っているものは水が抜けていて意外に簡単に運出せることがわかりました。今回の材は地元の製材所に持ち込んで、50mm程度の板にしてから、ベンチもしくはまな板として年度末の木工大に使用したいと考えています。

宮村 連理（本会、副理事長）





桜井尚武の 森のコラム

「キハダ」 (*Phellodendron amurense*)

「良薬は口に苦し」といいますが、漢方薬で有名なキハダはまさにその通り、とても苦いのです。一度舐めたらその味は忘れられません。嵐山の人工林内にかなり大きく育っていたキハダを見つけて樹皮を少し削ってみたのが図1です。内皮は綺麗な黄色です。キハダと断定するための決定点はこの黄色の内皮と舐めると苦いのを確認することですが、内皮を痛めないように外皮を剥がす必要があります。外皮はコルク質が発達した縦に溝のある厚い皮でかつては漁網の浮きや瓶などの栓にしたそうです。

もう一つの区別点は奇数羽状複葉の葉が対生して着いていることです。葉はヤマウルシ(*Rhus trichocarpa*)に似ているので、手を取る時には緊張します。キハダはミカン科で葉に油点があり特有の香を発します。雌雄異株で実がたくさんつきます(図2)。アゲハ蝶の食草としても大事です(図3)。

薬用植物で、陀羅尼助・お百草・練熊等の原料として知られています。江戸時代に太田蜀山人が「ここに陀羅尼輔といわれる薬がある。それを作る現場を見たところ黄檗という皮を煮詰めたものだった。大峰の霊山で焚く香が溜まった百草を混ぜて陀羅尼のお経で加持祈祷したものであるというのはよしもなき事なり」とわざわざ書くほど有名なものでした。百草丸(図4)は木曾御嶽山周辺の土産品として有名で、この地域では健胃整腸薬として日常的に飲まれているそうです。

百草丸を製造している製薬会社の友人が、原料の黄檗はほぼ全量が中国産なので、国産のものを育てたいと相談をしてきました。同社の先代がかつて造林したという木曾福島山を見ましたが、一本も見つかりませんでした。また最近の造林地でもシカの激しい食害を受けていました。こんな状態の山の資源回復技術開発には新たな産業の未来があるのではないかと思います。

桜井 尚武(本会、会員)



図1. 黄色い内皮
20090806嵐山



図3. アゲハ幼虫
20110523木祖



図2. 果実20160717
日光湯元



図4. 百草丸20100730
御嶽山登山口

【初参加者の感想から】

所属する全国森林インストラクター神奈川会(J F I K)の大先輩として日ごろからご指導いただき、さらに今年から来年にかけ、受講中の第16期神奈川県森林インストラクター養成講座の同期受講生として尊敬してやまない小林照夫様のお誘いを受け、12月16日開催の活動に参加させていただきました。私は前日の15日に1年にわたる森林インストラクター東京会(F I T)の森林技術講座を終えたこともあり、てっきり間伐のお手伝いをするものと勘違いし、うかがったところ、「今日は古道を探しに行く」(小林氏)とのこと。高校山岳部、大学は山岳部と探検部に所属していただけに「古道探し」に血が騒ぐ。落ち葉を集めたり、土中に埋まっている丸太の掘り起こしたりなど、整備に汗を流す他班の方々に申し訳なさを感じながら、小林様の後について、古道の三十三曲がりを探して急登に挑む。「稜線まで20分ぐらいだから」(小林氏)の言葉に励まされ、頑張るが、日ごろの運動不足がたたり、遅れ気味に。参加された皆様をお待たせしながら、なんとかついていった。森はヒノキの植林地にモミの大木が点在し、神奈川西北の樹林の特徴がよくわかった。帰りは反省会にも参加させていただき、皆様の優しいお人柄や深い知見に感動。栗田様には新宿の店までお教えいただき、感謝感激の1日でした。

私をはじめ60過ぎの年寄りが多い森林インストラクターの会に比べ、高校生や大学生が参加する会の活動に非常に感心しました。若い人が参加することは本当に素晴らしい。それもこれも宮村様をはじめ皆様が長年続けられてきたご努力と包容力の賜物と深く感動しました。本当にありがとうございました。

鈴木 康浩(ジャーナリスト、森林インストラクター、自然再生士)

【若者の森づくり】 ForesTo Class

幻の三十三曲がりと入山経路見当付け

先月に見つけられなかった三十三曲がりを緑のダムの小林さんが発見したということで、会のメンバーと6名で歩くことにしました。

しかし、そこは前回我々が歩いた尾根に沿って歩いていくルートで三十三曲がりではありませんでした。残念ですが、今後整備していく中で明らかにしていきたいです。

尾根筋から頂までに2つ平らになるポイントがあり、やはり景観が良さそうなのでまずは下から左右に振りながらゆるやかに登れるよう道の検討を付けていきました。

道については林業においては目的地までなるべく急につくり時間短縮を狙いますが、今回の目的は孫山方面への遊歩道を視野に入れているのでゆるやかに設定していきます。

まずは1つ目の平らなエリアまでの7曲がりにポイントした見当を頼りに来月以降進めていきます。午後からは嵐山の材搬出についての打ち合わせを行い、二藤さんの案としてロープを貼り巻きつける装置を使って作業道まで運搬するという方法を検討していきます。

今後は孫山までのルートを歩きながら散策、整備。お昼前後には丸太ストーブを活用した料理を

振る舞うレクリエーションなどを考えていきたいです。

滝澤 康至 (ForesTo Class)

【若者の森づくり】 地球環境部

例年より取り組みが遅くなりましたが、12月8日土曜日に東海大高輪台高校のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）のリベラルサイエンス生物の授業の受け入れをしました。本会スタッフ3名と大学生の補助の指導で、40名の高校生が3チームに分かれ、測量体験、毎木調査、さらにチームごとに間伐。間伐前後で360度カメラを使い、空隙率を計算する活動です。さらにこれらのデータと学芸大小金井中の生徒で行った植生調査の結果をまとめたものを、学芸大環境教育研究センターの研究紀要に論文として執筆、提出しております。読後掲載が決まりましたらまたご報告します。また、これまでの望星の森のデータを元に、3月の森林学会で高校生ポスター発表として準備を進めています。こちら後日ご報告します。

宮村 連理 (本会、副理事長)

NPO法人 緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

発行人：NPO緑のダム北相模

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社) さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク(株)

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第3日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。